

生きがいを持てる“居場所”の大切さ

社会福祉学部社会福祉学科 2年 分部 和実

活動先：NPO 法人 はっぴいわん大府

クラス：松下 典子 先生

1、はじめに

私が今回サービスマーケティングを行った NPO 法人「はっぴいわん大府」は、高齢者のための楽しいたまり場をつくり最後まで生きがいを持って、「みんなピンピンコロリといけたらいいね」を目標にし、そんな仕組みを創造していく市民団体である。町の人みんなで支える、いつ来てもいい、いつ帰ってもいいもうひとつの家、を目指している。また、市民団体として一切介護保険の事業をしていない。活動場所は「はっぴいわん大府」だけでなく、「ふれあいの居場所みどり」「とまり木」と3つがそれぞれの地域の人達がボランティアで支え合っている。そんなところにとっても魅力を感じ「はっぴいわん大府」で実習してみたいと思い、活動を希望した。

2、活動を通して

私は8月19日～24日の6日間活動を行った。この6日間の活動はとても充実した6日間だったと思う。6日間の活動を具体的に述べていきたい。

・8月19日：久保田さんの自宅でバーベキュー

この日は、はっぴいわん大府のスタッフの方々と一緒にバーベキューを行った。バーベキューを通して人との交流の大切さを学んだ。はっぴいわん大府のスタッフさんはほとんど中年以上の方なので、私が知らないことがたくさんあることが気づけた。また、経験が豊富なのでいろんな知恵を教えてくださいました。そして1人ひとりのスタッフさんは人との出会いを本当に大切にしていることがわかった。

・8月20・23日：とまり木での活動

この日は、午前中に昼食づくり、配ぜん片づけなどを行った。

・8月21日：ふれあいの居場所みどりでの活動

この日は、とまり木での活動と同様、午前中に昼食のお手伝いをした。準備や配ぜん、片づけなどを行った。

・8月22日：はっぴいわんでの活動

この日は、午前中に昼食づくりのお手伝いをしたり、折り紙を折ったりした。午後は、生まれて初めてのボールペン画体験をした。ボールペン画は写真よりもリアルに描かれていて、書かれた人の気持ちがこっちまで伝わってくるようなとても素晴らしいものだった。指導していただいた K さんは「1人になったお年寄りが何もしていないのはいけないから、生きがいを持つひとつの手段としてボールペン画を教えている。ま

た、介護予防にもつながる」とおっしゃっていた。そのことを聞いて、このようなもうひとつの居場所で得意を活かして生きがいや新しい人や新しいことに繋がりを創りだしている居場所があることは、とても良いことだと思った。



8月24日

この日は、最終日ということで、はっぴいわん大府の原点である、常滑市にある「はっぴいわんひろば」を見学した。また、久保田さんの息子さんの家にもお邪魔させていただきました。彼は海で拾ったゴミから作品を創りだす創作活動をしている。最後に久保田さんの得意である手相占いをしてもらった。

3、活動を通しての学びと気づき

この6日間を通して1番に学んだことは“居場所”という存在の大切さだ。居場所があることにより、利用者さんの生きがいにもつながり、また介護予防にもなることが分かった。家から出てはっぴいわん大府やとまり木、ふれあいの居場所みどりに来れば、スタッフさんや利用者さんの方々がいるので、話をするだけでも笑顔になるし、とてもいきいきした気持ちにもなる。こういった、もうひとつの家のような存在が近くにあるだけで、精神的にも安心すると思う。だからこそ、地域の人たちとの交流、つながりが必要不可欠になってくるのだと思う。子どもからお年寄りまでの幅広い世代での交流を今から行えば、今より地域の雰囲気も変わると思うし、もっとお互いを知りあうことができるのではないだろうか。

一人ひとりが生きがいを持てるような地域にしていけるように、私たち自身がこれから考えていくべきだと感じた6日間だった。



スタッフの方



はっぴいわんひろば